

笠間陶芸大学校事業による人材育成



図1 1年生 ろくろ成形課題



図2 2年生 造形課題「注器」講評会



図3 研究科前期展（前期課題発表会）



図4 学生作品展（全学生）
つくば美術館にて

【内容】

本事業は、陶芸産地の新しい担い手育成及び産地作陶家の課題解決力向上を図る目的で実施しました。

○陶芸産地の新しい担い手育成

陶芸学科（1年生12名、2年生8名）・研究科（3名）のカリキュラムは表1のとおりで、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで実施しました。また、発表の場として研究科前期展、つくば美術館学生作品展を開催しました。2月には例年行われている卒業制作展も陶芸美術館にて開催しました。

研究科前期展（9/14～19）来場者 664名
つくば美術館学生作品展（11/8～13）来場者 650名

表1 各学科の内容

| 学科 | カリキュラム(約 200 日 1,400 時間) |
|-------------|--|
| 陶芸学科 1年生 | 基礎課題、ろくろ成形課題(図1)、石膏課題、手びねり等成形課題、意匠課題、釉薬調合、焼成実習(ガス・電気・薪など)、各種講座など |
| 陶芸学科 2年生 | 造形課題(5課題)(図2)、ポートフォリオ課題、各種講座、卒業制作など |
| 研究科 | 研究課題(前期(図3)・後期)、各種講座、卒業制作など |

○産地作陶家向け専門研修

陶芸従事者を対象とした技術力向上や課題解決力向上を目的とした専門研修を実施しました(表2)。延べ15名が研修を受講しました。

表2 専門研修の科目と内容

| 科目 | 内容 |
|------|-----------------------------|
| 成形技術 | 座学および実習を含む定型カリキュラムによる研修(図5) |
| 釉薬技術 | |
| 石膏技術 | |
| 焼成技術 | |
| 総合 | 受講者の要望に応じたオーダーメイド型の研修 |



図5 専門研修（左：釉薬技術 中：石膏研修 右：総合研修）研修風景

【人材育成の成果】

陶芸大学校を卒業した学生は、それぞれ陶芸作家を目指し、地元を中心に独立自営や窯元就業する等、将来の笠間産地を担う人材として大いに期待されています。

専門研修においては、研修生がオリジナル釉薬の開発や石膏型を使った新たな製品開発等、それぞれ目標を持って研修に参加することで、技術力の向上と製品化に繋がっています。

○各種公募展における在校生・卒業生の受賞者一覧（令和4年）



図6 現役学生入選作品
陶芸学科2年 金森絵美



図7 現役学生入選作品
陶芸学科2年
鍛冶(田村)伊吹

- ・第10回陶美展（主催：日本陶芸美術協会）
 - 《優秀賞》 金森 絵美（令和4年度陶芸学科2年）（図6）
 - 《奨励賞》 重本 千尋（平成28年度成形基礎コース卒）
 - 《入選》 鍛冶(田村)伊吹（令和4年度陶芸学科2年）（図7）
 - やまわきてるり（令和3年度陶芸学科卒）
 - 波部 圭亮（平成29年度陶芸学科卒）
 - 宮本 果林（平成28年度研究科卒）
- ・現在形の陶芸 萩大賞展VI
（主催：現在形の陶芸 萩大賞展VI実行委員会）
 - 《佳作》 宮本 果林（平成28年度研究科卒）
 - 《入選》 金森 絵美（令和4年度陶芸学科2年）
 - 矢次 美穂（平成29年度陶芸学科卒）
 - 重本 千尋（平成28年度成形基礎コース卒）
- ・第56回女流陶芸展（主催：女流陶芸）
 - 《入選》 出口 結莉（平成30年度陶芸学科卒）
- ・第57回 神奈川県美術展（主催：神奈川県美術展委員会）
 - 《入選》 室賀 奏子（令和3年度陶芸学科卒）

| 基礎となった事業 | | 令和4年度 笠間陶芸大学校事業 | | |
|----------|-------|-----------------|--------|------------------|
| 担当グループ | 陶芸人材G | グループ長 | 尾形 尚子 | TEL:0296-72-0316 |
| | | 特命教授 | 佐藤 雅之 | |
| | | 特命教授 | 五味 謙二 | |
| | | 主任研究員 | 常世田 茂 | |
| | | 会計年度職員 | 根本 達志 | |
| | | 会計年度職員 | 新島 佐知子 | |
| | 窯業材料G | グループ長 | 寺門 秀人 | |
| | | 首席研究員 | 児玉 弘人 | |
| | | 主任研究員 | 吉田 博和 | |